

ニューヨークセンターの活動

天理教ニューヨークセンター所長
福井 陽一 Yoichi Fukui

本年(2022年)5月26日付で、天理教ニューヨークセンター所長の辞令をいただいた。これまで務めてきた天理文化協会での職務を終え、今後はセンターに夫婦で住込みながら所長として精一杯努めていきたい。ニューヨーク通信の連載は、ニューヨークセンターの様子も交えながらお伝えしていくことにする。

7月31日、ニューヨーク市当局は「サル痘」を公衆衛生上の緊急事態と宣言した。全米の感染者の約3割がニューヨーク州、特に市内に集中しているようだ。エリック・アダムス市長はニューヨーク市を米国におけるサル痘発生の「震源地」と見なして警告した。すでに各所でワクチンの接種が始まっているが、供給が追いつかず予約切れなどの状況が発生している。

また、同月11日、ニューヨーク市は、核攻撃を受けた際に生き残る方法を市民に伝えるビデオをYouTubeで公開した。ビデオは核弾頭が爆発した後に何をすべきなのかを段階的に説明している。市長は、ウクライナでの戦争のこともあり、「積極的な一歩」だと述べているが、市民の間では、なぜこのタイミングで公開するのか不安の声が上がっている。

ニューヨークの街中には、今は使用されていないが、昔の核シェルターの看板があちこちに残っており、あらためてその存在を確認する機会にもなった。

ニューヨークセンターの設立

1977年1月、アメリカ伝道庁の出張所として天理教ニューヨークセンターが設立された。設立の契機となったのは、1971年の中山善衛3代真柱の来訪であった。それ以降ニューヨークに天理教関係者が集える場所を設置する機運が高まった。さらに遡ると、1933年に中山正善2代真柱がニューヨークに2週間滞在され、ニューヨーク布教の第一歩をしるした。その一粒の種があって、現在のニューヨークの道の発展につながっている。

所在地

ニューヨークセンターは市内にある五つの区の一つクイーンズ区のフラッシング地区に所在している。フラッシングの町の歴史は古く、1635年にはオランダからの入植が始まっている。この町の特徴は特に宗教の自由を認め、いかなる妨害も受けないことを町の憲章としていたため、「新世界における宗教的自由の発祥地」とされている。オランダ植民地時代の歴史的建造物バウン・ハウスや旧クエーカー集会所などがセンターの近所に残っている。そのような歴史的背景からか、宗教的に多様なコミュニティであり、現在200以上の礼拝堂があると言われている。

センターが設立された頃はフラッシングに日本人が多く住んでいたが、現在は中国、韓国などからの移民が多く、約80%がアジア系の住民で占められている。

建物

センターの建物は3棟と柔道場からなり、約21,350平方フィート(約2,000平方メートル)の敷地に立っている。現在の神殿は2008年に竣工し、120名収容できる参拝場と地下には同じく120名収容できるホールがある。延床面積は約7,500平方フィート(700平方メートル)になる。設計はMarble



Fairbanks 設計事務所が担当した。この神殿は、21世紀の最初の10年間に建てられた代表的な建造物の一つとして、*Guide to Contemporary New York City Architecture* に紹介されている。

活動内容

センターの月次祭(第1日曜)には、毎月120名前後の参拝者があるが、現在は新型コロナの影響で100名ぐらいになっている。月次祭後には、初めての参拝者向けのJoy Workshopが行われ、その次のレベルのThree Day Courseが年に一度行なわれている。文化協会日本語クラスの学生や関係者も月次祭に参拝し受講している。機関誌として『せいじん』『Progress』を発刊している。

婦人会、青年会、少年会、学生会の各会も、総会や例会、おとまり会、鼓笛、祭り、親睦会など様々な活動を定期的に行っているが、現在は制限された中で活動が続けられている。

地域社会との繋がりとしては、ヤードセール、年末のホリデーバザー、夏祭り、もちつき、柔道クラス、雅楽などが挙げられる。



柔道クラスは1997年、2代真柱の30年祭に合わせて当時の森下敬吾所長により開設された。ガレージを改造した20畳ほどの小さな道場に将来の夢を託して「ニューヨーク天理道場」の大きな看板が掲げられている。これは、3代真柱に揮毫していただいたものである。現在は佐々木教之氏が師範を務めている。今年に入り柔道クラスが再開された。まだ再開していない他の道場からの生徒も加わり、活動は賑わいをみせている。

ニューヨークセンターとニューヨーク天理文化協会は「車の両輪」によく例えられる。おつとめを芯に活動を展開するセンターと文化活動を通して世界ににをいがけを展開する文化協会。共に力を合わせて世界に陽気ぐらしの喜びを伝えていきたい。